

基礎病態・社会医学演習

| | | | |
|--------------|---|--------|------------|
| 責任者・コーディネーター | 機能病態学分野 増田 友之 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 機能病態学分野、分子医化学分野、感染症学・免疫学分野、医学教育学分野、病理診断学講座、衛生学公衆衛生学講座、情報伝達医学分野、放射線医学講座 | | |
| 担当教員 | 増田 友之 教授、佐藤 孝 教授、古山 和道 教授、村木 靖 教授、佐藤 洋一 教授、久保田 美子 准教授、石田 和之 特任准教授、吉野 直人 特任准教授、上杉 憲幸 講師、田鎖 愛理 講師、刑部 光正 講師、近藤 ゆき子 講師、鈴木 智大 助教 | | |
| 対象学年 | 3 | 区分・時間数 | 演習 21.0 時間 |
| 期間 | 前期 | | |

・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医科学の知識と3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医科学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合して、病態生理を理解し問題を解決する能力を示すことができる。

（ディプロマ・ポリシー：2）

・到達目標（SBO）

個々の行動目標は授業担当者毎に授業の開始時に提示される。

以下、基礎病態・社会医学演習として行動目標の概要を示す。

- 1) 演習問題の作問意図を指摘できる。
- 2) 演習問題の関連知識を説明できる。
- 3) 正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

【演習】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|------------|-------------|-----------------------|
| 4/11 | 火 | 2 | 病理診断学講座 | 上杉 憲幸 講師 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |
| 4/18 | 火 | 2 | 機能病態学分野 | 佐藤 孝 教授 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |
| 4/25 | 火 | 2 | 分子医化学分野 | 古山 和道 教授 | 分子生物学で履修した内容の演習 |
| 4/26 | 水 | 3 | 分子医化学分野 | 久保田 美子 准教授 | 分子生物学で履修した内容の演習 |
| 4/26 | 水 | 4 | 衛生学公衆衛生学講座 | 田鎖 愛理 講師 | 疫学・環境医学で履修した内容の演習 |
| 5/16 | 火 | 2 | 病理診断学講座 | 刑部 光正 講師 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |
| 5/19 | 金 | 4 | 機能病態学分野 | 増田 友之 教授 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |
| 5/26 | 金 | 1 | 感染症学・免疫学分野 | 村木 靖 教授 | 微生物学で履修した内容の演習 |
| 6/2 | 金 | 1 | 医学教育学分野 | 佐藤 洋一 教授 | 臨床解剖学で履修した内容の演習 |
| 6/16 | 金 | 1 | 病理診断学講座 | 石田 和之 特任准教授 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |
| 6/23 | 金 | 1 | 放射線医学講座 | 鈴木 智大 助教 | 【特別講義】正常画像について |
| 7/3 | 月 | 1 | 情報伝達医学分野 | 近藤 ゆき子 講師 | 薬理学で履修した内容の演習 |
| 7/5 | 水 | 3 | 感染症学・免疫学分野 | 吉野 直人 特任准教授 | 免疫学で履修した内容の演習 |
| 7/5 | 水 | 4 | 機能病態学分野 | 増田 友之 教授 | 病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習 |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|--------------------------|---|-----------------------------|------|
| 参 | カラー図解 これならわかる 薬理学 第2版 | Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein 著、佐藤俊明訳 | メディカルサイエ ンスインターナシ ヨナル | 2012 |

・成績評価方法

統合型試験を実施し、評価を行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|-----------------|----|--------|
| | デスクトップパソコン iMac | 1 | 講義資料作製 |